

使用の手引き

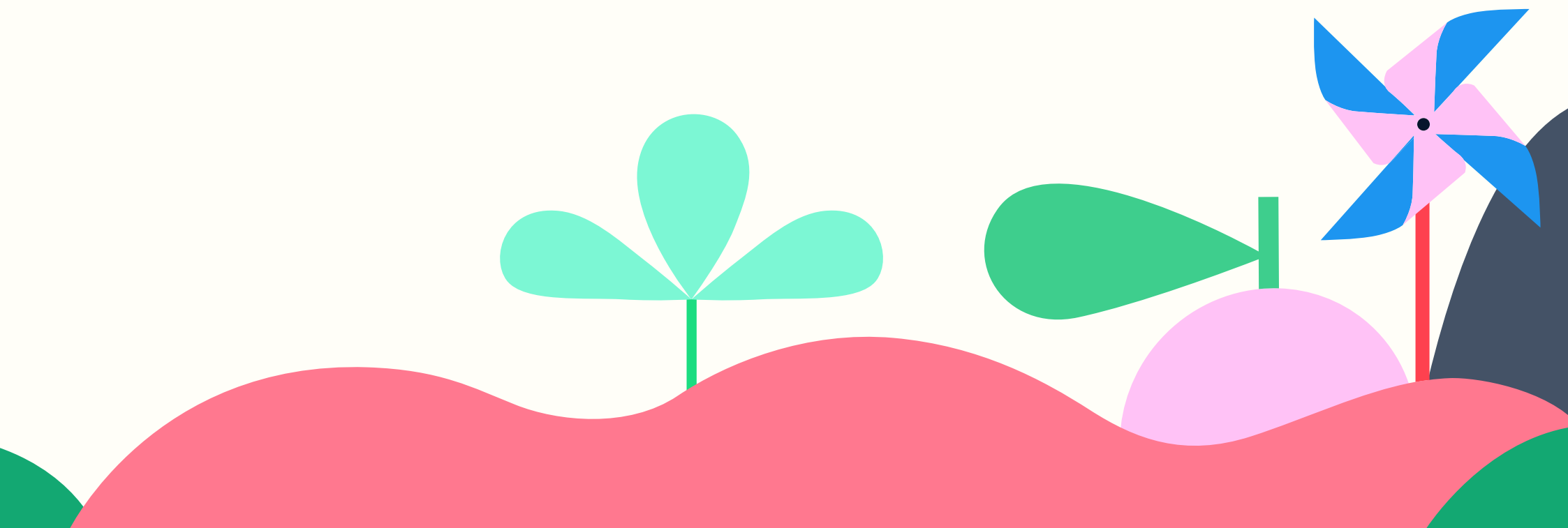


”トンゴ ミュージック“ は、2歳から8歳児を対象に作られたものです。自然に遊びながら、また直感的にクラシック音楽への扉を開くことができます。

トンゴと共に可愛らしく作られた景色の中を散歩し、動くものに触れてみて下さい。子供たちはいろいろな楽器、またその音色や有名な曲に出会い、更に音部記号、音符、五線譜などにも接することができます。

この”トンゴ ミュージック” はテキストを全く使用せず、絵の動きと音楽のみで作られています。まだ字の読めない幼い子供にも非常に適しているといえます。

この手引きでは、楽器や楽曲などについて簡単な説明をいたしました。皆様の参考となれば幸いです。この可愛らしい景色をトンゴと散歩しながら、どうぞお楽しみください。

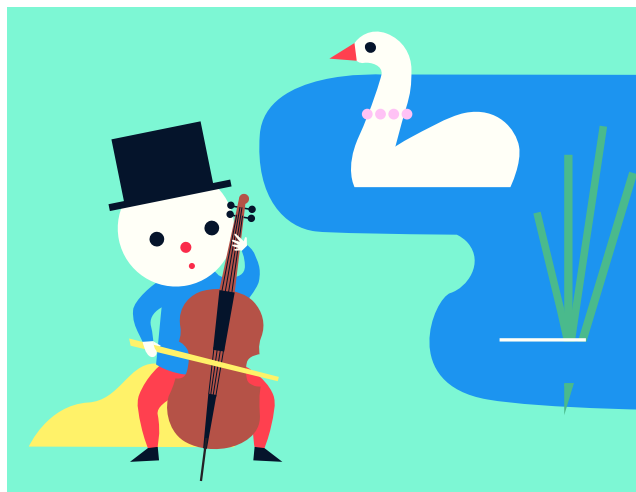


弦楽器

ヴァイオリンは木で作られた美しい形をした楽器です。ヴァイオリンの下の方を左肩にのせ、あごで支えます。左手はネックを持ち、指で4本の弦を押さえます。右手に持った弓で、弦を摩擦することによって振動が起こり、更に楽器全体も振動して音が作られます。ヴァイオリンは明るく高く響きます。

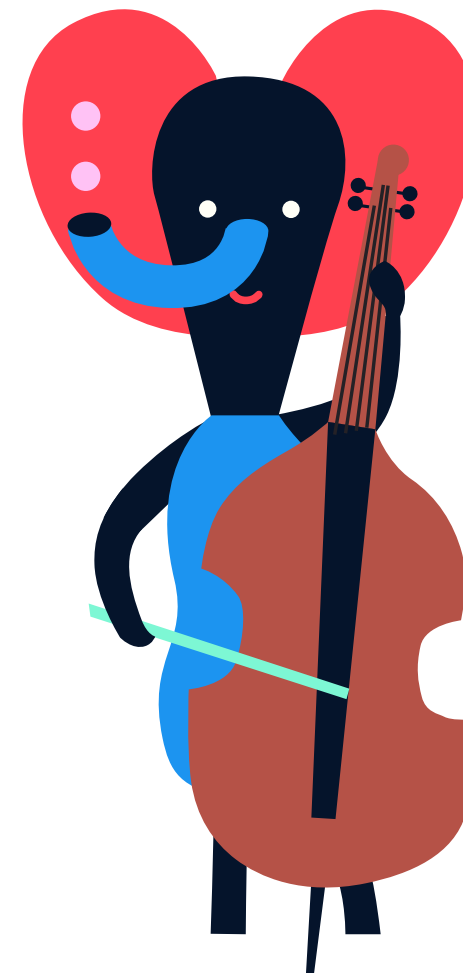
チェロはヴァイオリンに似た形をした大きな楽器です。やはりチェロもヴァイオリンと同じように、弓で弦を摩擦することによって音が鳴ります。楽器が大きいので椅子に座り、ひざの間にはさんで支えます。チェロの響きは低く温かいものです。左手の指で弦をおさえることによって、音の高さが変わります。振動する弦が長い場合は低く響き、短い場合は高く響きます。

コントラバスは弦楽器の中で一番大きい楽器です。演奏するときには立つか、立ち椅子に腰をのせま。コントラバスの響きはとても低く太い音がします。また弓を使わず、右手の指で弦をはじいて演奏をすることがあります。この奏法はピチカートと呼ばれ、他の弦楽器でもこの奏法は使われます。



弦楽器の弓は馬の尾の毛で張られています。馬の尾の毛はとても長くまた硬いので、弦を摩擦し振動させるのに最も適しています。ヴァイオリンの弓には約140本、チェロの弓には約180本、コントラバスになると約300本の毛が使われています。

“動物の謝肉祭”は1886年にフランスの作曲家、カミーユ・サン＝サーンス（1835-1921）によって作られました。この作品の中ではいろいろな動物がいろいろな楽器によって表現されています。とても愉快的なキャラクターを持っている曲が多いのです。ここでは、白鳥（チェロ）、象（コントラバス）、猿（ヴァイオリン）、魚（高音の弦楽器、フルート、ピアノ）を紹介いたします。

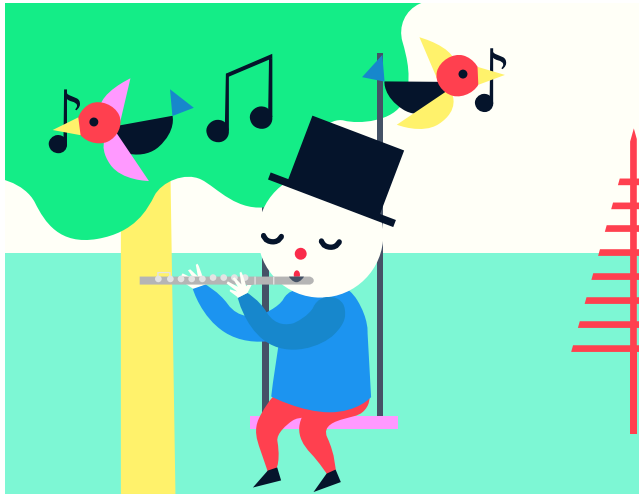


管楽器

フルートは空気を送る穴にくちびるがつくように両手で水平に持ちます。音が鳴るようになるのには、空気の半分が楽器の中に、他の半分は外に出るように空気の圧力を穴に当てなければなりません。フルートの大半は銀で作られ、明るく澄んだ響きがあります。

クラリネットは硬い木で作られ、その長い楽器には金属製のキーと下方には円錐形のベルかついてます。複雑に作られたキーを押さえることによって穴の開閉が異なり、音の高さが変化します。音自体はフルートと違い、マウスピースに付いているリードを振動させて音を作ります。クラリネットの響きは、柔らかく温かいのが特徴です。

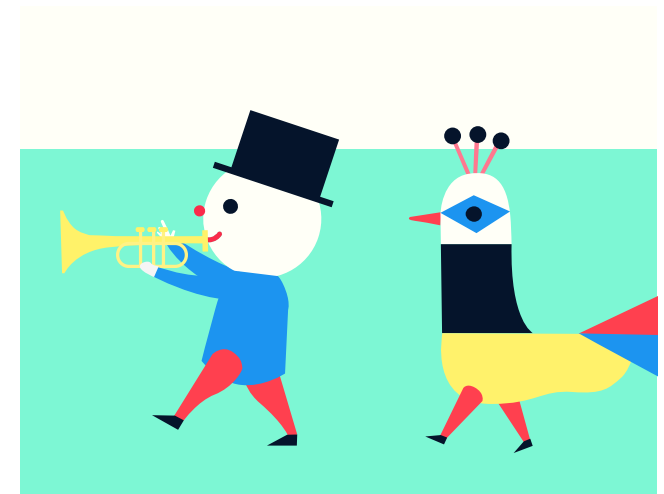
トランペットは、とても長細く先が円錐形の金属製の筒を曲げてできています。音はマウスピースにくちびるをつけ、ほほをふくらませて力強く空気を送り込んで出します。細長い筒に空気を送るので高く輝かしく響きます。トランペットに付いている3つのピストンを押すことによって音の高さが決まります。



ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー (1840-1893) は、ロシアで非常に好まれている作曲家の一人です。ピアノ協奏曲第1番、またバレエ音楽“白鳥の湖”、“眠りの森の美女”、“くるみ割り人形”などが有名な作品です。ここでは“くるみ割り人形”の中の一曲を紹介します。弦楽器のピチカート (弦を指ではじく奏法)、3本のフルートの音がよく聴こえます。とても素敵な旋律だと思いませんか？



ニコライ・リムスキー・コルサコフ (1844-1908) も又ロシアの作曲家です。ここでは“シェヘラザード”という曲の中からクラリネットの美しいメロディーをお聴きください。”千夜一夜“に登場する“シェヘラザード”という頭の良いお姫様 (毎晩王様に興味深い物語を話すことによって殺されるの免れた)をご存知ですか？

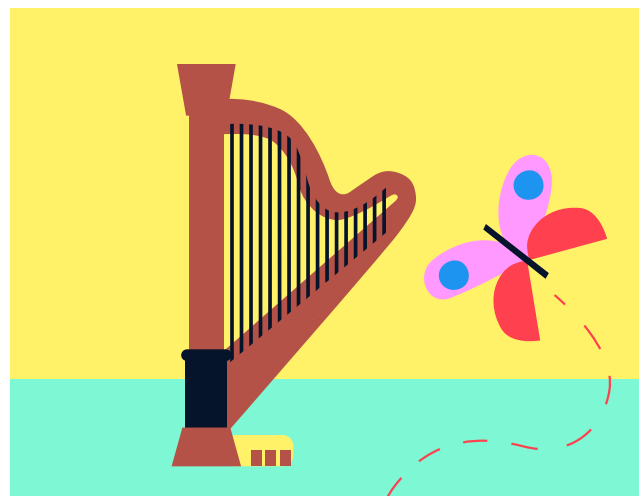
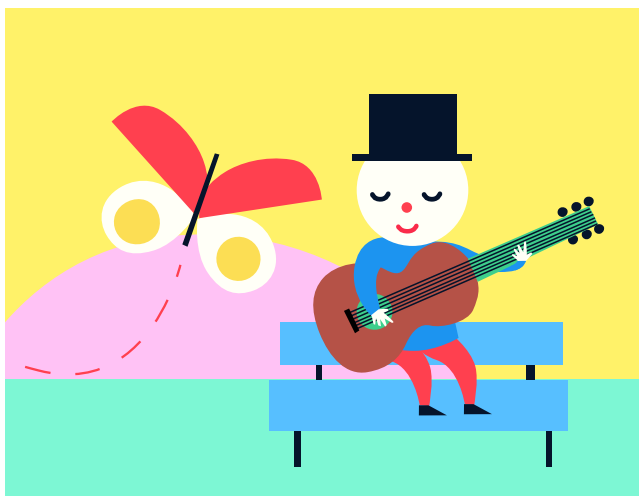


この曲は、フランス人の作曲家マルカントワーヌ・シャルパンティエ (1643-1704) の作品“テ・デウム”の最初の一部です。トランペットの高く輝かしい響きを聴くことができます。

撥弦楽器

ギターには普通6本の弦が張られています。弦楽器との大きな違いは弓で弦を摩擦するのではなく、指やピックではじいたり、たたいたりして音を出します。はじくときには弦を1本又は2本を同時に次々とはじき、たたくときにはリズムによって複数の弦を手のひら全体を使って演奏します。音の高さは左手の指の押さえる位置によって変わり、低い音は振動する弦が長く、その反対に高い音は振動する弦が短くなります。

もうハープの音に気がつかれましたか?このアプリの中で動くものをクリックすると、ハープの響きが聴こえます。ハープはとても大きな楽器で、美しく飾られた木の枠に47本の弦が張られています。ハーピストはこの弦を素早く、上へ下へと次々にはじきます。音の高さを変えるために足もとに7本のペダルが付いています。

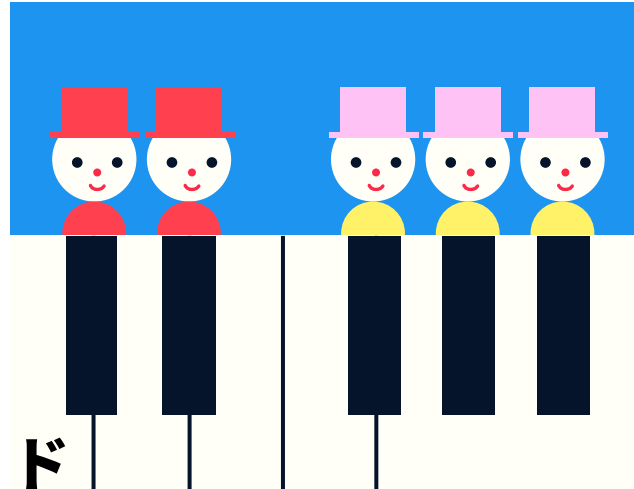


フランシスコ・タレガ (1852-1909) はスペインのギタリスト、作曲家です。この小曲は”蝶々“と呼ばれています。この繊細なギターの音で、色鮮やかで今にもこわれそうな蝶の羽を想像することができますか?

ピアノ

この大きな楽器の中には200本以上の弦が張られています。鍵盤を押さえると、ハンマーが弦をたたき音が出ます。音を出すことは簡単ですが、楽器の仕組みは非常に複雑にできています。

標準的なピアノは白鍵52鍵、黒鍵36鍵を備え、白鍵は長く横に並び、黒鍵は短く2鍵と3鍵のグループで並んでいます。ドの音は2鍵のグループの1つ目の鍵盤の左側にあります。



ここで紹介する4曲は、作曲家自身ヴィルトゥオーゾのピアニストだった作品です。フレデリック・ショパン (1810-1849) はポーランドのピアニスト、作曲家。短い生涯の大半をパリで過ごし、非常にたくさんのピアノ曲を作曲しました。ここでは 作品64第1番 有名な ”小犬のワルツ“ をお楽しみください。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) は世界一有名な作曲家といってもよいでしょう。オーストリアの作曲家で、短い生涯の中で非常に多くの作品、また今日でも人々に好まれて演奏される曲を書き残しました。これはピアノソナタ 第11番の中から “トルコ行進曲” です。

フランツ・リスト (1811-1886) はハンガリー人で、ヨーロッパ各地で活躍したヴィルトゥオーゾなピアニスト、作曲家です。ヴィルトゥオーゾとは華やかな演奏、非常に難しい技巧をこなすことができる楽器演奏者のことです。リストは指揮者、作曲家としても幅広く活躍しました。ここではピアノのための練習曲 “ラ・カンパネラ” の始めをお聴きください。

ロベルト・シューマン (1810-1856) はヴィルトゥオーゾのピアニストを目指しましたが、指の故障のために断念、作曲することに専念しました。。当時有名な女流ピアニスト、クララ・ヴィークと結婚し、ピアノのために数多くの曲を作曲しました。子供が演奏するために書かれた ”子供のためのアルバム“ より “楽しき農夫” を紹介いたします。仕事を終えて家に帰る楽しげな農夫の様子を描いたものです。

オルガン

このアプリの中でピアノより更に大きいもう一つの鍵盤楽器、もう見つけることができましたか？ オルガンは楽器の中で最も大きいもので、教会や大きなコンサートホールにあります。オルガンの響きはパイプの中に空気を送りこむことによって鳴り、大きなものになると数千本のパイプからできています。演奏するのは簡単ではなく、オルガニストは段違いに備えられた多数の鍵盤を弾きながら、同時に足ではペダルの鍵盤を操作します。このオルガンの響きは、このアプリの中では空の星に触れると聴くことができます。

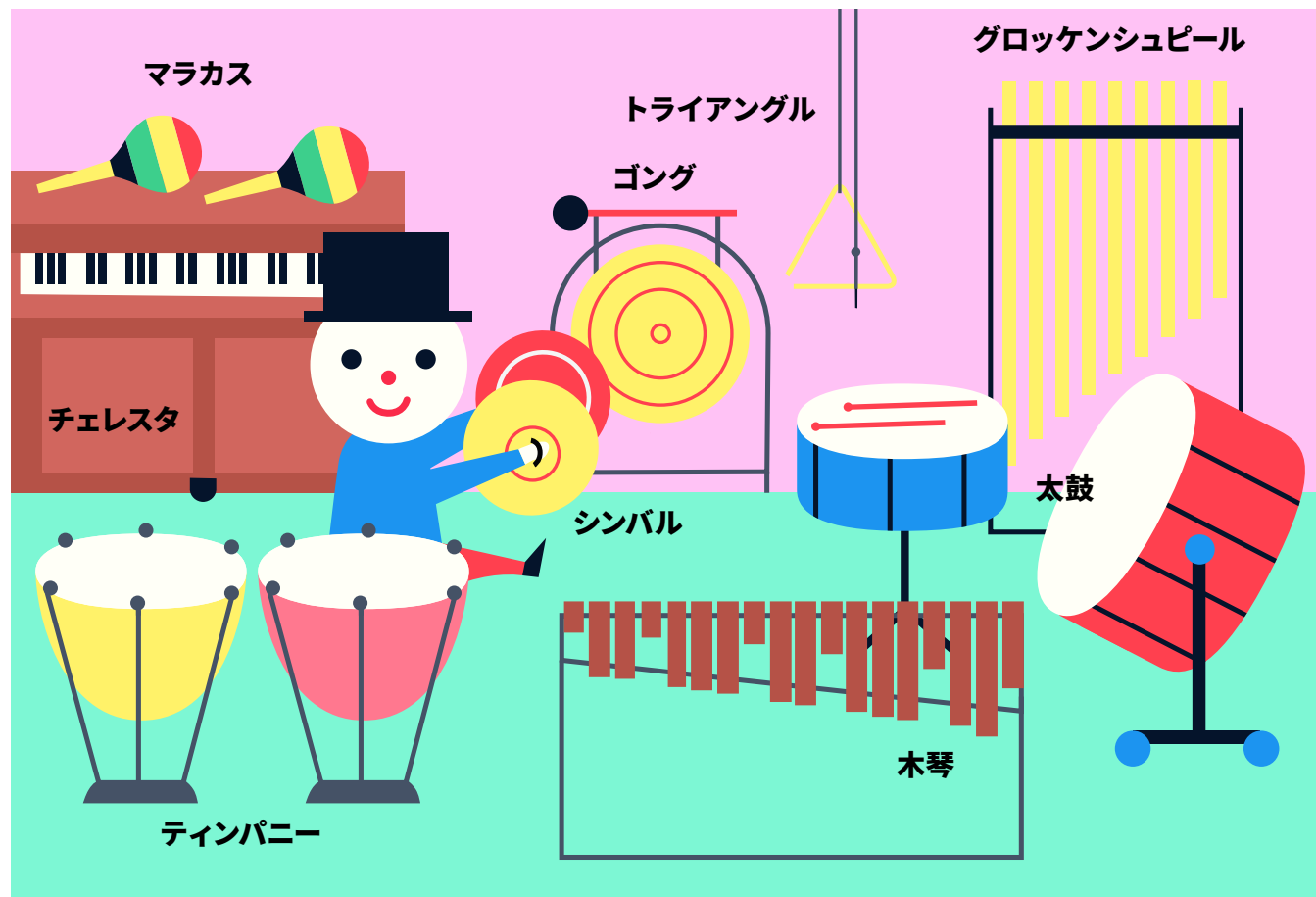
ヨハン・セバスチャン・バッハ (1685-1750) はオルガンのヴィルトゥオーゾでした。今日では作曲家としてとても有名で、非常に多くの作品、チェンバロのための前奏曲とフーガ、オルガンのためのソナタ、そして何より数多くの教会音楽を作りました。ドイツのライプツィヒにあるトーマス教会の教会音楽家時代に、多数の名曲が誕生しました。”ヨハネ受難曲“、“口短調ミサ”、“クリスマス・オラトリオ” などです。ここでは星空の下で、オルガンソナタ第2番、ゆっくりな楽章をご紹介します。



打楽器

打楽器にはたくさんの種類があり、それぞれいろいろな音がありますが、“雑音”がするものと、“音程のある音”がするものがあることに気づかれましたか？それにはどのような違いがあるのでしょうか。“音程のある音”とは、歌ったり、ピアノで音にあった鍵盤を見つけることができるものです。ここでは木琴、チェレスタ、グロッケンシュピール、またティンパニー

が”音程のある音“の打楽器、マラカス、シンバル、ドラム、太鼓などが“雑音”のする打楽器を紹介します。このアプリでこの違いをぜひ聴き比べてみてください。



指揮者

大勢の楽器演奏者が合奏するのがオーケストラ。たくさんの音楽家と一緒に演奏するためには指揮者が必要になります。指揮者はすべての楽団員からよく見えるように、オーケストラの前の真ん中に立ち、手の動き、顔の表情、体全体の動きで音楽を表現し、オーケストラ団員に音楽を伝えます。

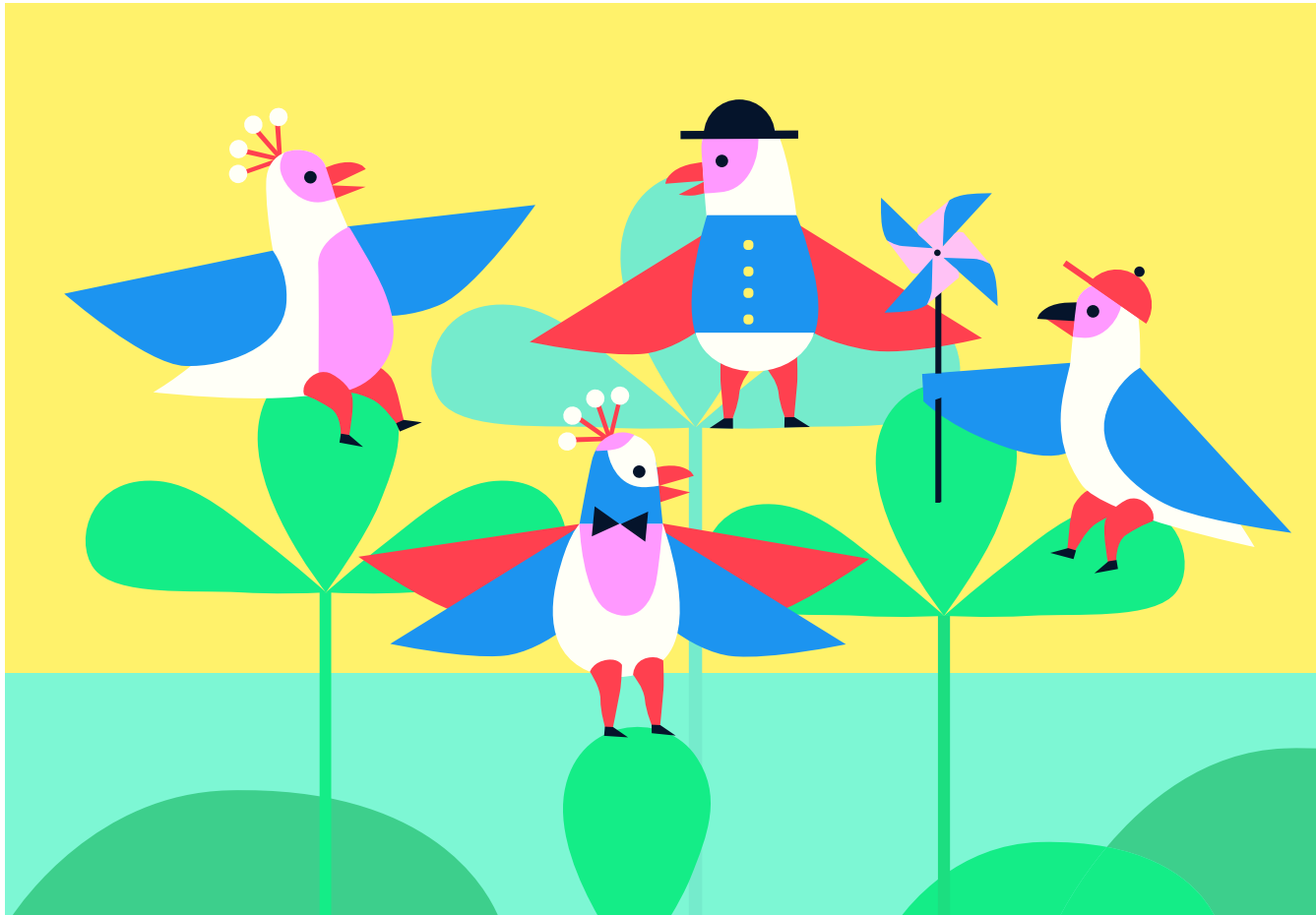
ほとんどの指揮者は、右手に指揮棒を持ち、曲のはじめの合図、テンポ、拍子や強弱を示します。



私たちは歌をうたうことができます。私たちの体も楽器の一つといえるでしょう。ところでどのように声は出るのでしょうか。

のどの中には二つの小さい声帯があります。肺から出される空気で声帯が振動して音が出ます。それによって私たちは話ができたり、歌をうたったりできるのです。

私たちの声は性別の違いなどから、高い音から低い音まで出すことができます。このアプリでは、声の音域の違いを四羽のパパガイを通して聴いてみてください。



合唱団では大勢の人が一緒に歌をうたので、やはりオーケストラと同じように合唱指揮者が必要となります。合唱団では次の四つのパートに分かれます。

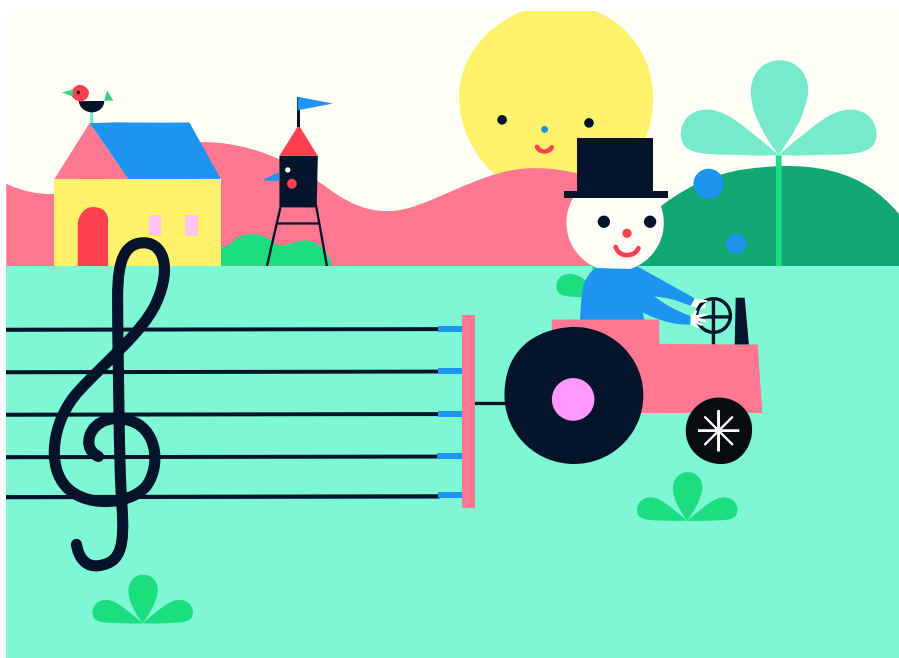
- 女性の高い声 — ソプラノ
- 女性の低い声 — アルト
- 男性の高い声 — テノール
- 男性の低い声 — バス

音部記号

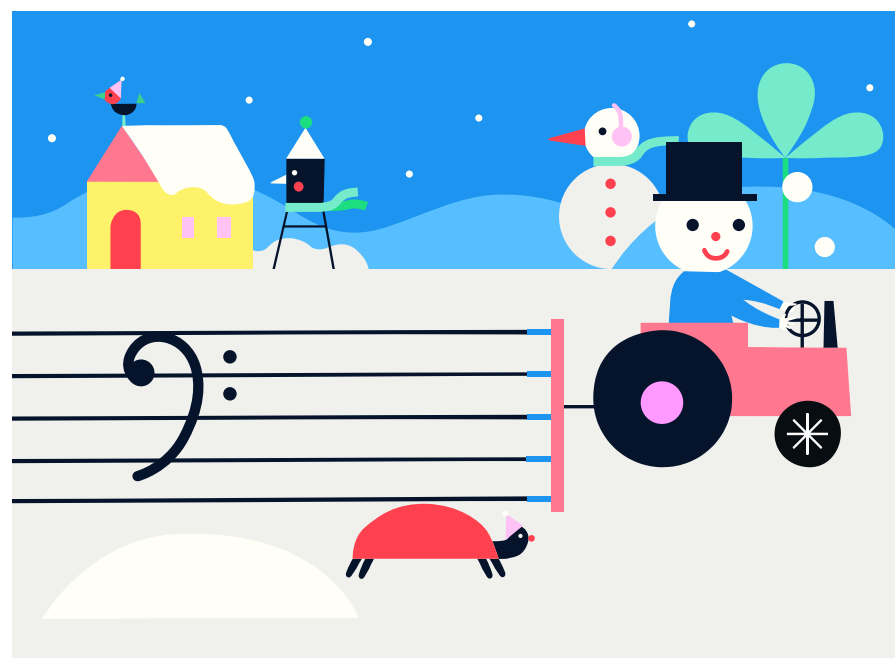
音楽は五本の線（五線）の上に書き表すことができます。下から上へ、第一線、第二線・・・となります。まず一番左に音部記号がきます。それによって、どの音がどこにくるのか、演奏者に支持を与えます。

この曲線の美しい記号がト音記号と呼ばれます。ト音記号は記号の中心が第二線上、そこがトの音（ソの音）であることを示しています。ト音記号は高い音域を示すときに使われ、ヴァイオリン、トランペット、フルート、ピアノの右手の大半の楽譜をト音記号で書きます。

これはヘ音記号です。ヘ音とはファの音のことで、記号の最初の大きな点、第四線上の音がヘ音（ファ）となります。ヘ音記号は低い音域、主にチェロ、コントラバス、ピアノの左手に使われます。



イタリア人の作曲家、ルイジ・ボッケリーニ（1743-1805）は華やかなチェリストでした。このエレガントなメヌエットは、有名な弦楽五重奏作品11変ホ長調の中の曲です。ヴァイオリンの美しい高音がよく聴こえてきます。

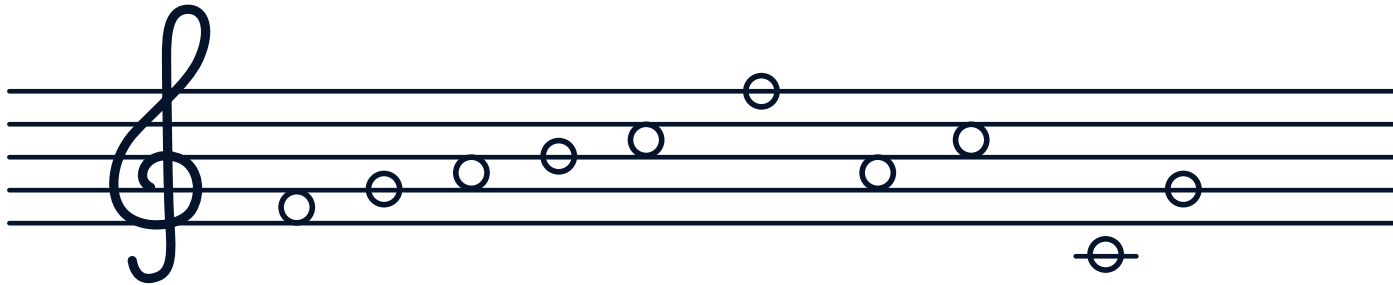


ここではチェコの作曲家、アントニン・ドヴォルザーク（1847-1904）が作曲したチェロとピアノのためのロンド 作品94 を紹介します。ドヴォルザークの作品の中で彼がアメリカに滞在の時に作曲した、交響曲第9番 ”新世界より” は特に有名です。

音符

文章を書くときに私たちは文字を、それと同じように音楽では音符を使います。小さな点(たま)に棒がついたように見えます。歌ったり、楽器を演奏するのに欠かすことが出来ない楽譜は音符で書かれます。

音符は五線譜の中で、線の上や線の間次々と並んだり、時には小さく、時には大きく飛ぶことがあります。



これらの音符には、名前がついています。7つ音の名前は、ドーレーミーファーソーラーシです。

高い音はト音記号に

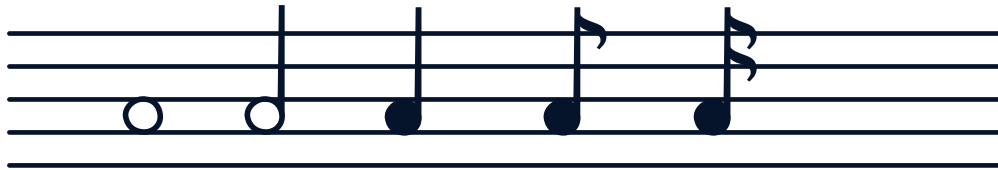
低い音はヘ音記号に

ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド

ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド

音の長さ（音価）

音の長さは、長かったり短かったりします。それを区別するのに、たまを黒く塗ったり、棒や旗がついたりします。ここでは長い音符から短い音符へと並んでいます。



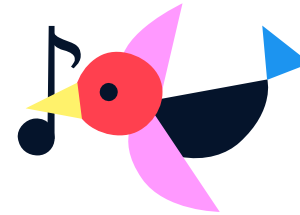
全音符 二分音符 四分音符 八分音符 十六分音符

音楽には時に何も音がない瞬間があります。この音のない静かな瞬間も音楽なのです。これを休符として表します。休符も音符のようにいろいろな長さがあります。休符は次のように五線の上に書きます。



全休符 二分休符 四分休符 八分休符 十六分休符

ここではロベルト・シューマンのピアノ曲、作品82“森の情景”の中からの一曲を紹介しましょう。この曲には四分休符がたびたび使われています。四分休符の時にシカが森の中から顔を出しますので、休符をよく聴いてみてください。



トンゴミュージック 子供と家族のため



www.firstconcert.com